

G1 平成 24 年度活動報告

金谷麻理子, 松田裕雄

【1】研究目的（課題）

本研究グループ（以下、T1）はこれまでの SPERT プロジェクトの G1 の活動を継続し、筑波大学体育センター（以下、体育センター）の教育活動を中心に、これまでの「大学体育」を総括するとともに現状を把握することを目的として、以下の3段階で研究活動を推進している。（図1参照）なお、今年度はこれまでの活動によって明らかになった各種調査結果のまとめ作業を行った。

1) 基盤研究

「大学体育」を運営する組織の教育事業を可視化するための基本的枠組みを規定する。

2) 評価・検証研究

体育センターが展開してきた教育事業をさまざまな観点から評価・検証していく。

3) 新規提案・挑戦研究

現代および今後の社会に貢献しうる人材育成のための「大学体育」について、および体育センターにおける教育活動のあり方について研究し、提案する。また、これからの体育・スポーツの本来の価値についての新たな知見を得る。

【2】構成員

○金谷麻理子, ○松田裕雄, 白木仁, 吹田真士, 武田丈太郎, 桐生習作, 向後佑香

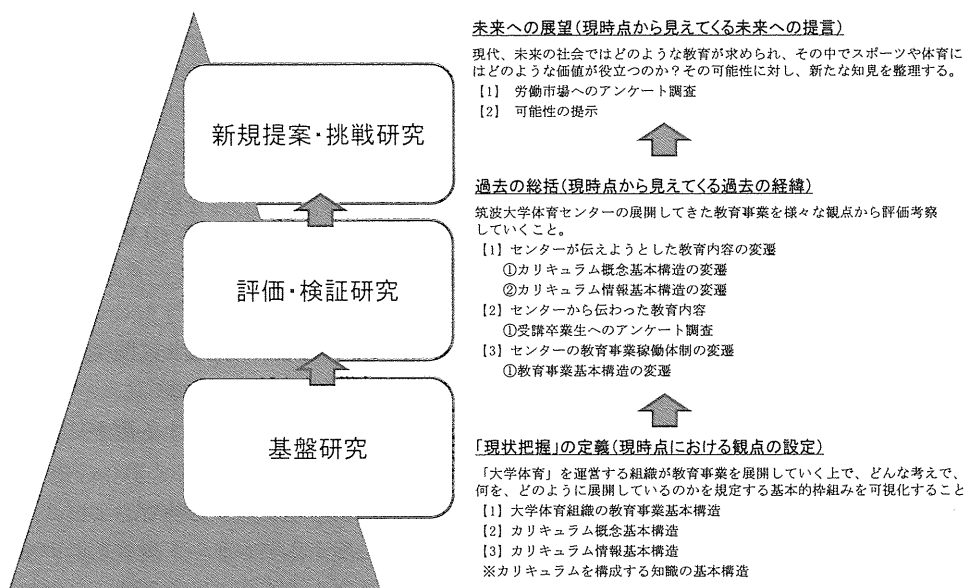


図1 研究概要

表1 全体ミーティングと主なテーマ

第1回(4月4日):	平成23年度総括, 平成23年度活動および予算計画, 各調査のまとめ作業の進捗状況①(卒業生に対するアンケート調査に関する考察内容, ボーディングスクール視察報告書の作成方針, 海外の学生に対するアンケート調査の方法〔Web使用〕)
第2回(5月9日):	コア会議報告, 各調査のまとめ作業の進捗状況②(卒業生に対するアンケート調査の考察内容, ボーディングスクール視察報告書の作成手順, 海外の学生に対するアンケート調査の方法〔郵送〕と役割分担)
第3回(6月6日):	各調査のまとめ作業の進捗状況③(卒業生に対するアンケート調査の考察内容, ボーディングスクール視察のテープ起こしの報告, 海外の学生に対するアンケート調査の中間報告)
第4回(7月4日):	各調査のまとめ作業の進捗状況④(卒業生に対するアンケート調査の考察内容, ボーディングスクール視察資料の翻訳に関する報告, 海外の学生に対するアンケート調査の中間報告〔Web終了〕)
第5回(9月5日):	各調査のまとめ作業の進捗状況⑤(卒業生に対するアンケート調査の考察結果, ボーディングスクール視察報告書の構成と執筆担当, 海外の学生に対するアンケート調査の回収状況)
第6回(10月19日):	各調査のまとめ作業の進捗状況⑥(卒業生に対するアンケート調査に関する論文の投稿先, ボーディングスクール視察報告書の作成状況①, 海外の学生に対するアンケート調査の回収状況①), フォーラムにおけるG1セッションの概要
第7回(11月6日):	各調査のまとめ作業の進捗状況⑦(卒業生に対するアンケート調査に関する論文の準備状況①, ボーディングスクール視察報告書の作成状況②, 海外の学生に対するアンケート調査の回収状況②), フォーラムにおけるG1セッションの構成①
第8回(12月5日):	各調査のまとめ作業の進捗状況⑧(卒業生に対するアンケート調査に関する論文の準備状況②, ボーディングスクール視察報告書の作成状況③, 海外の学生に対するアンケート調査の回収状況③), フォーラムにおけるG1セッションの構成②
第9回(1月9日):	各調査のまとめ作業の進捗状況⑨(卒業生に対するアンケート調査に関する論文の投稿先の変更, ボーディングスクール視察報告書の作成状況④, 海外の学生に対するアンケート調査のまとめ①), フォーラムにおけるG1セッションの詳細
第10回(2月6日):	各調査のまとめ作業の進捗状況⑩(卒業生に対するアンケート調査に関する論文の作成状況, ボーディングスクール視察報告書の作成状況⑤, 海外の学生に対するアンケート調査のまとめ②), フォーラムにおけるG1セッションの内容確認

[3] 活動報告

(1) 会議

今年度は定例として計10回の会議を開催した(表1参照)。ここでは、これまでの活動に関連して、主に次の4つの議題について審議した。

①筑波大学の卒業生および体育センター教員に

対する共通科目「体育」に関するアンケート調査についての論文作成

②大学体育のルーツに関する調査についての論文作成

③海外の大学生に対する体育およびスポーツの価値に関するアンケート調査とそのまとめ

④教養教育を重視する教育機関(米国におけるボーディングスクール)における体育および

スポーツ活動の現状に関する実地調査の報告書作成

なお、昨年度同様すべての会議において、前回会議の議事要旨の確認および予算の執行状況の報告、スケジュール確認を行った。また、上記の他に各調査担当者が必要に応じて数多くの打ち合わせを行った。

(2) 今年度の主な活動

今年度は、主にこれまでの調査の総括として、以下に示す4つの作業を行った。

1) 海外の大学生に対する体育およびスポーツ

の価値に関する調査の継続とその結果分析
大学における体育・スポーツの価値について、海外の現役大学生を対象としてアンケート調査を昨年度から引き続き実施した。なお、質問項目は、調査対象者が体育やスポーツに対してどのような価値観を有しているのか、また実際どのような活動を行っているかなどについてである。また、調査対象はサンプル数を確保するために筑波大学と交流実績のある大学（米国、ブラジル、香港、アゼルバイジャン、オランダ、ドイツ、ロシア等）を中心に選定し、Webおよび郵送にて実施した。その結果は別紙にて、報告する。

2) 教養教育における体育及びスポーツの教育的価値（米国ボーディングスクールに着目して）に関する調査

国際的エリート養成機関である米国東部地域におけるボーディングスクールに着目して、教養教育におけるスポーツ教育の位置づけやその理念、教育体制について調査を行った。その結果、今回調査対象とした10校すべてにおいて、課外でのトレーニングや対校戦を必修の活動として教育カリキュラムに位置づけるなど、スポーツ教育を建学の理念を達成するための重要な要因としてスポーツ教育を重視し、高い教育効果をあげているということが明らかになった。（詳細は報告書に記載。）

3) 大学における教養「体育」の教育効果に関

する調査（卒業生を対象としたアンケート調査に基づいて）の結果分析

アンケート調査は、大学における教養教育としての体育授業の教育効果を明らかにすることを目的として、「体育」の元受講生である卒業生を対象として実施された。結果の分析は、主に大綱化前後と大綱化後における必修単位数の違いに着目して比較した。その結果、「体力」に関する質問項目および生涯スポーツ、コミュニケーション能力、人に教える楽しさ、体を動かす喜びなどのキーワードを含む質問項目で違いが認められた。また、この結果と大綱化前後における異なる教育目標と関連について興味深い結果が得られた。（詳細は論文として発表予定）。

(3) 研究成果の発表

下記の概要で研究成果を発表した。

1) 投稿論文

・大学体育の価値向上に向けた一考察－教育実践における目標・教授・学習に着目して－、大学体育学研究9, 69-92 (2012) ([社] 大学体育連合, 大学体育優秀論文賞受賞)

2) 報告書

・海外視察調査報告書2011 米国東海岸周辺地域のボーディングスクールにおけるスポーツ教育の実態（別冊）

[4] 総括

「現状把握」を目的としたT1(G1からの継続)における研究活動は以下のように総括される。

1) 基盤研究及び評価検証研究：体育センターの教育変遷に関する実証研究

教育概念基本構造を用いた大綱化前後の相違点および教育効果（卒業生アンケート）・教育実践（教員アンケート）に関する調査によって、体育センターがこれまでに実施してきた共通科目「体育」の教育活動における効果と問題点が明らかになった。

2) 国内及び海外における実態調査研究：これまでの大学体育の理念と意義に関する研究

わが国における大学体育発祥の理念と背景、意義の変遷の調査からは、これまでの大学体育の発展史とそこでの問題性、今後の課題が明らかになった。また、海外における体育授業の実態及びスポーツ教育の価値に関する調査からは、各国におけるスポーツのあり方や教育システムの違いが体育授業やスポーツ教育のあり方に大きく影響していることが明らかになった。

3) 新規提案・挑戦研究：新しい大学体育への提言及び指針提示

上記2つの調査によって、今後大学体育が果たすべき役割が明らかになった。なお、計画当初予定していた労働市場調査は実施できなかった。一方で、国際的なエリート養成機関（ボーディングスクール）においてスポーツ教育がと

りわけ重視されていることに着目した点については、今後大学体育のあり方を検討するにあたって大いに参考になると考えられる。

今後はこれらの結果に基づいて、大学体育の理念を具現化する方法、特に「人間・人間関係の形成」に寄与する教授法について検討していく必要があると考えられる。また、大学体育が国際的に活躍できる人材の育成に寄与していくために、海外高等教育機関におけるスポーツ教育の現状および海外労働市場において求められる人物像に関する調査研究を継続していきたい。(H25科学研究費補助金に申請：研究題目「社会人基礎力養成のための教養教育プログラム構築に関する研究」)。